

助成金 & クラウドファンディング申請ワークショップ 開催報告



- 開催日……2017年1月9日(月・祝)
- 時間……13:00~16:40(~17:00 交流会・個別相談)
- 会場……交流スペース まちスポ飛騨高山
高山市天満町 1-5-8(フレスポ飛騨高山内)
- 主催……NPO法人 まちづくりスポット
- 協力……NPO法人 地域の未来・志援センター
飛騨信用組合
- 参加者数…12名

< 当日プログラム >

時間	内容	登壇者(敬称略)
13:00	セミナー開始	
13:05-13:15	主催団体挨拶・お話	(特非)地域の未来・志援センター 理事長 / (特非)まちづくりスポット 代表理事 竹内ゆみ子
13:15-13:20	講師挨拶	(特非)地域の未来・志援センター、飛騨信用組合
13:20-13:30	自己紹介、ワークの説明	
13:30-13:50	申請書書き方ワーク 1. 申請書を書くまでの準備 ~ミッションと団体全体の事業をまとめる~	(特非)地域の未来・志援センター 三ツ松由有子
13:50-13:55	休憩	
13:55-14:25	2. 助成事業を語ってみよう	(特非)地域の未来・志援センター 三ツ松由有子
14:25-14:55	3. 実際に書いてみよう①	
14:55-15:05	休憩	
15:05-15:35	4. 実際に書いてみよう②	(特非)地域の未来・志援センター 三ツ松由有子
15:35-16:00	申請事業プレゼンタイム 事業プレゼン&質疑応答	
16:00-16:10	投票審査	
16:10-16:23	表彰&審査経験コメント	
16:23-16:36	FAAVO、各助成金の案内	飛騨信用組合 水川明美 (特非)地域の未来・志援センター 三ツ松由有子 (特非)まちづくりスポット 谷前久美子
16:36-16:40	閉会挨拶	(特非)地域の未来・志援センター 理事長 / (特非)まちづくりスポット 代表理事 竹内ゆみ子
16:40	セミナー終了	
16:40-17:30	アンケート記入、交流会、個別相談	

< プログラムの流れ >

飛騨地区で活動する市民活動団体、個人など12名が参加した今回のワークショップは、前回(2015年9月)に同会場で行ったワークショップを基に、助成金申請書の書き方を学ぶとともに、助成金の獲得、ひいては協力者の獲得に必要と考えられる「想い(事業)を伝える力」の向上を中心テーマに置いたプログラムを組み立てました。

いろいろな資金調達方法を検討するための機会とするため、また、近年増えている、個人で新しく活動を始めようとする人にクラウドファンディングで「仲間づくり」をしてもらいたいとのまちづくりスポットの意向から、今回は「FAAVO 飛騨・高山」の地域オーナーである飛騨信用組合からもご協力いただき、間口が広がり、参加者数や年齢層に変化が見られました。

◆主催団体挨拶・お話

開会に先立ち、NPO 法人まちづくりスポット代表理事で、当法人の理事長も務める竹内ゆみ子より挨拶がなされました。

続いて、企業が社会貢献活動として助成金制度を設ける背景、助成金申請時に問われる「成果」の回り方など、助成金についてお話がありました。



↑ 助成金についてお話しする竹内理事長

◆自己紹介、ワークの説明

講師、ファシリテーターからそれぞれ挨拶がなされた後、テーブルごとに簡単な自己紹介が行われました。参加者の緊張が少し解かれたところで、当団体の三ツ松から、このワーク全体の流れ、目的と、そもそも助成金とはどんなものか? わかりやすい文章を書くために気を付けるべき点が説明されました。

◆申請書書き方ワーク

1. 申請書を書くまでの準備～ミッションと団体全体の事業をまとめる～(20分)

団体全体の事業やミッションと、申請事業を分けて整理するために、『団体概要シート』を使って「団体設立の背景および目的」、「主な活動実績」を各自記入してもらいました。



↑ 真剣にワークに取り組む参加者

2. 助成事業を語ってみよう(30分)

次に、申請したい事業についてテーブルごとに語りあう時間を設けました。申請書を書く前に構想を人に話し、質問を受けることで、自分(たち)の申請事業の構想を整理してもらうこと、第三者に理解してもらうために必要なことに気づいてもらうことがこのワークの目的でした。

ここで話された事業について、別の参加者からの提案を受けて申請事業に盛り込む人がいたり、ファシリテーターのアドバイスから新しいプランのヒントを得て企画が生まれたり、当初の目的以上の効果が生みだされました。

3、4. 実際に書いてみよう(各 30分)

2のワークで事業構想を整理できたところで申請書ワークシートの記入ワークに移りました。6つの記入項目のうち前半 3 つを記入するとことからスタート。休憩をはさんで残りの 3 つに取り組んでもらいまし

た。

前回のワークで最後まで書けない人が多かったことの反省から、最初の「事業目的」や「事業内容」でつまづいた人には、書きやすい「スケジュール」から記入してもらうよう促し、記入のための時間を長くしたことで、みなさん最後までシートを埋めることができたようでした。

◆申請事業プレゼンタイム(25分)

申請事業プレゼンタイムでは、各テーブルから1人ずつ、4名がワークシートに記入した事業についてプレゼンを行いました。また、参加者にはプレゼン終了後に「事業アイデア賞」、「共感賞」をそれぞれ一人一票ずつ投じてもらうこととお話し、審査員の視点でプレゼンを聞いてもらうようお願いしました。「問題意識とやろうとしている事業は合っているか」、「事業を実行できる体制が整っているか」、「スケジュールに無理はないか」など、活動や事業を客観的に評価することを体験するとともに、どんな事業が応援したくなるかを感じていただきました。



↑ 代表者によるプレゼンテーション

◆投票審査(10分)、表彰&振り返り(13分)

プレゼンされた事業に投票してもらい、集計結果から表彰された「事業アイデア賞」、「共感賞」の受賞者に拍手が贈られました。その後、参加者からプレゼンの審査や発表を経験しての感想、講師・ファシリテーターからのアドバイス、感想などが交わされました。

参加者の意見には「『こういう事業です』と、はじめにインパクトをもって語る事ができるとよいのでは」と、具体的なアドバイスもあがりました。



↑ 全員から温かい拍手が贈られた

◆FAAVO、各助成金の案内

今回のワークショップでの練習を活かしてもらうために、飛騨信用組合の水川さんよりクラウドファンディング『FAAVO 飛騨・高山』、当団体の三ツ松からセブン-イレブン記念財団『環境市民活動助成』、まちづくりスポットの谷前さんより『まちスポ飛騨高山助成金』をご紹介します。ここで『FAAVO』に興味を持った参加者が、この後担当者に個別相談をしていました。

◆閉会挨拶、アンケート記入・交流会・個別相談

竹内理事長より閉会の挨拶がなされ、ワークショップは閉会。アンケート記入後はそのまま交流会・個別相談のための自由な時間となりました。40~50分ほどの交流時間の間、ほとんどの参加者がその場に留まって交流を深めていました。



↑ 参加者も講師もみんな交流

以上